

社会福祉法人 清水あすなろ福祉会

# 法人だより

福祉情報を発信します

風の子保育園・あすなろの家・ともの家

No.12 平成30年3月20日

静岡市清水区山原 871-2  
Tel 054-363-2046

## ともの家「感謝のつどい」を開催

ともの家に関わるみなさんに一年の感謝を伝えるつどい



「ともの家」はご家族・職員だけでなく、ボランティア・地域の支援者など多くの方々に支えられています。

年末には仕事の終わりとともに、恒例の感謝のつどいがエリザベードで開催され、仲間・職員、日頃からともの家を支えてくださっている方々130人が参加し、仲間のとても立派な開会のことばでスタートしました。

ショータイムではチンドン屋が登場し、華やかな仮装をして練り歩き、いつの間にか仲間たちが加わって、長い列になっていました。保護者の方たちも、三百六十五歩のマーチ「ワン・ツー・ワン・ツー」と色とりどりの手袋をして盛り上げてくれました。

最後は、この日のために練習を重ねてきた「にじいろ」を合唱し、仲間の閉会の言葉で会を終えました。  
(次ページに参加者の感想)



## 障がいのある皆さんに寄り添って 共に歩む「ともの家」



監事 佐塚氏

### 一体で盛り上がっている様子に 料理も忘れるほどの感動！

昨年12月27日に「エリザベート」で行われた「ともの家感謝の集い」に参加させていただきました。他に所用があった為、集いの前半部分位のところで退席させていただきましたが、その事が非常に残念に思った程感動しました。

障がいのある皆さんも、保護者の方達も、「ともの家」の職員の皆さんも一体になって楽しく盛り上がっている様子に、最初はやや身構えて臨んだ私でしたが、すっかり会場の雰囲気と融和されてしまい、目の前の料理に手を出すのさえ、ともすれば忘れる程でした。

### はじけるように明るく、前向きで楽しそう

殊に障がいのある皆さんの、はじける様に明るくて、前向きで、楽しそうな様子には深い感動を覚えました。

障がいのある皆さんは、その障がい故に厳しく辛い日々を送り、暗い人生を過ごしているのではと思っていましたが（勿論そう言った側面もあるのでしょうが）、そんな思いを吹き飛ばすような爆発的な姿でした。これは障がいのある皆さん一人一人が持っている素養の発露でしょうか？それと父母の皆様の愛情と前向きな姿勢、「ともの家」の取り組みの素晴らしさが証明されているのでしょうか！

### 特殊ではない障がいをもつ家族

さて、テーブルに座りましたところ、同じテーブルに我が家の近所のお宅のご夫婦が、障がいを持つ娘さんと同席されておられ、また、私の高校の同級生が姪っ子が障がいを抱えているとのことで参加していました。その他にも私の身の回りに随分多くの知的あるいは心身の障がいを持つ家族を抱える知人がいます。かく云う私にも心の病を持った娘がいます。様々な障がいを持つ家族がいる家庭というものは特殊なことではないのでしょうか！



「ともの家」のような、障がいのある皆さんに寄り添って、共に歩いていくような施設が増えていくことを念じながら、後ろ髪を引かれる思いで退席した次第です。

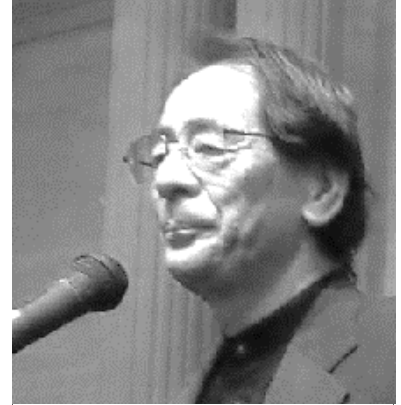
## (障がい者の) 保護者の高齢化→「老障介護<sup>\*</sup>」に不安

—法人で研究を深めて、何らかの支援を期待します—

※注 高齢者が高齢者を介護する「老老介護」と同じように、高齢化した保護者が高齢化した障がい者を介護する大変さを表す言葉として使われます。(編集者注)

法人主催の「地域福祉懇談会」で提起された課題です。現状ですぐに応えられるものではない重い課題ですが、避けて通れない問題と思っています。

法人として考え、深めていく大きなテーマとして、改めてここでご発言を紹介します。



ご発言された ともの家  
支える会会長 桑原氏

### 障がいも個人に責任？

私は「あすなろ」の申し子みたいなものです。

子どもがダウン症なのですが、風の子保育園に入り、ともの家には22年間バスで通っています。

国は、「我が事丸ごと地域共生社会」などと言っていますが、公的なものがどんどん削られていくような気がして仕方がないです。「地域包括」とかいいことは言うんだけど、実際突き詰めると、個人責任に負わされるんじゃないかと心配なんです。

私の場合、日赤に通院して在宅看護をしましたが、家族の苦勞というのはすごいです。「老老介護」とか言われますが、私のところでは「老障介護」です。

### ダウン症でも元気で長生きできます

40年前、ダウン症は20歳寿命説というのがあって、20歳までしか生きられないと言われてました。

それが、うちの子は今40歳になって、毎日元気で仕事をしています。この先、何年生きるか、もちろん喜んでいるのですが、私も68歳になり、この先どうなってしまおうだろうという心配が出てきています。



### 「老障介護」の深刻さ

障がいをもった子どもが長生きするのは本当にいいんですが、親が70歳、80歳になって、その子供をみている。「老障介護」ですね、この深刻さは本当に大変なんです。

3事業をやっているあすなろ福祉会が、むずかしいと思いますが、あすなろ福祉会の特徴を生かして、ぜひその辺の研究を深めて、何とかそういう支援を提供できるようなものを出してくれればな！と思います。

## 国の予算からみる これからの福祉の行方

兆7126億円となっている。

制度としての社会福祉が今後どうなるか、福祉施設の運営に関わる者として強い関心を持たざるを得ないのは当然。政治の骨組みとなる国の予算を見れば、それはある程度うかがえます。

予算案の社会保障費は過去最高でも、自然増を1300億円圧縮  
そのために制度の見直しか？

30年度予算案の一般会計総額は過去最大の97

兆7126億円となっている。国の予算のなかで社会保障費は歳出の約3割という大きな比率を占める。30年度予算でも、29年度当初予算比で1.5%（4997億円）増の32兆9732億円と過去最大となりました。

しかし、自然増6300億円を算入した概算要求から1300億円を圧縮しています。これは、政府の財政健全化のため28～30年度の自然増を計1兆5000億円、各年度で5000億円に抑える方針を打ち出しているものによります。

HP「役員のつぶやき」より要約抜粋

## 国の予算と社会福祉について

あすなろ福祉会理事長 杉井則夫

### 膨らむ社会保障を考える

一利用者負担増で自然増圧縮でいいのかー

社会保障関連予算の自然増が圧縮されるということは、支給が削られたり、場合によっては丸ごと削除されることもあるということを意味します。（具体的施策については、次号で紹介します）

全体としては膨大な借金を抱えた日本が、膨らむ社会保障費についてどう考えるかに絞って問題点を考えてみます。

1 必要な予算額をどう確保するか？

その選択は主権者である私たちに突き付けられています。

2 軍事費を削って福祉に回せば、ということはいく言われますが、国民の生命財産を守るためにとって軍事予算を増やして、一方で国民の日常生活に犠牲を強いることの是非。

3 一方では企業減税や高額所得者への減税政策がすすめながら、利用者負担増が推し進められています。これをどう考えるか？ これでもいいのか？

4 政府は自助・共助・公助といっていますが、特に共助については地域社会の果たす役割が大きくなっています。

しかし認知症対策や身体機能回復訓練など専門的知識も求められますので相互

扶助頼りには限界があります。

5 多くの社会福祉事業が民間企業にゆだねられ、一時的にはサービスの向上があっても、利益が出なくなったとたんに事業者の撤退という事態が各所に発生しています。社会福祉が利益の対象でよいものなのか？

### 政官業の癒着・なれあい？で

### 国民の納得は？

基礎的財政収支の赤字と、巨額の借金を抱えた国家財政を考えれば、権利だと要求するだけでは問題は解決しないことは理解できます。

しかし、最近で言えば、もりそば・掛けそば・スパゲティと揶揄される森友学園・加計学園・スーパーコンピューター業者への不透明な補助金に見られる、政・官・業の癒着なれ合いや、政治資金の極めて不透明な流れなど、造船疑獄以来昔からの旧態依然たる政治と金にまつわる疑惑が繰り返されるようでは、国民の納得は到底得られないのではないかと思います。

### 政治の方向性を問われる社会保障費

社会保障費の問題は、まさに日本の政治の方向性を問われているのではないのでしょうか。